



2017年度 天文資料

平成29年度 第9号 (12月号)

平成29年11月22日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<12月はふたご座流星群が極大、スーパームーンも見られる>

ふたご座流星群は数ある流星群の中でも、最も活発な出現を見せてくれる流星群のひとつです。今年のふたご座流星群の極大は、12月14日の昼間15時から16時頃と予想されていますので、その前後2~3日が見ごろと思われま

す。また、12月4日は満月ですが、今年一番大きく見える満月、つまりスーパームーンです。ちなみに、最も小さかった満月は6月9日です。今回はこのふたご座流星群とスーパームーンを紹介します。

<ふたご座流星群>

ふたご座流星群は、毎年12月の半ばに出現する流星群で、1月のしぶんぎ座流星群、8月のペルセウス座流星群とともに、三大流星群のひとつです。母天体^{※1}は長らく謎でしたが、1983年にNASA^{※2}の赤外線天文衛星が発見した、小惑星フェアソンであることがわかりました。この天体は、もとは彗星だったので、ガスやチリを放出しつづけてしまい、太陽のまわりをわずか1年5か月で公転する小惑星となりました。放出されたガスやチリは、地球の公転軌道に残り、そこを地球が通過す



る12月の中旬ごろに流星群が出現するようになりました。毎年1時間当たり20~30個の流星が出現するため、人気の高い流星群です。今年の極大は、12月14日の15~16時と予想されていますが、この時間は、昼間なのでもちろん見えません。14日の0時過ぎから未明にかけてが、最も多くの流星を見ることができそうです。この日は、3時過ぎに細い月が出ますが、条件としてはまずまずです。また、この日の1~2日前後も、多くの流星が見られそうです。放射点^{※3}の近くのふたご座は、天頂近くにありますが、流星はどの方向にも出現する可能性があります。

ふたご座流星群(提供:国立天文台)

※1:流星群を起こすもとになる彗星などの天体。彗星が通った後には大量のチリが残り、そこを地球が通過すると、チリが大気圏に突入して多くの流星が出現する。

※2:アメリカ航空宇宙局

※3:流星は放射状に出現するが、その中心点を放射点という。

<12月4日スーパームーン>

年に1度は必ずやってくるスーパームーン、今年は12月4日がそれに当たります。今年一番小さかった6月9日の満月と比べて視直径^{※4}が4°大きいのですが、肉眼では見分けが付きません。



※4 視直径:地球から見た天体の2点間の角度

<10月27日の月面 x >

天文資料7(10月号)で紹介いたしました「月面 x」を撮影することができましたので、その写真を掲載いたします。

